The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	渡邉克昭教授略歴および研究業績等一覧
Author(s)	
Citation	大阪大学英米研究. 2024, 48, p. 3-17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99597
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

渡 邉 克 昭 教授

渡邉　克昭　教授
略歴および研究業績等一覧

【略歴】

1977 年 3 月　京都教育大学附属高等学校卒業
1977 年 4 月　大阪外国語大学外国語学部英語学科入学
1981 年 3 月　大阪外国語大学外国語学部英語学科卒業（外国語学士）
1981 年 4 月　大阪大学大学院文学研究科英文学専攻博士前期課程入学
1983 年 3 月　大阪大学大学院文学研究科英文学専攻博士前期課程修了（文学修士）
1983 年 4 月　大阪大学大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程入学
1985 年 3 月　大阪大学大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程単位取得退学
1985 年 4 月　大阪大学言語文化部助手
1987 年 4 月　大阪大学言語文化部専任講師
1987 年10月　大阪外国語大学外国語学部専任講師
1990 年 4 月　プリンストン大学英文科客員研究員（日米友好基金助成、1991 年 3 月まで）
1992 年 1 月　大阪外国語大学外国語学部助教授
2004 年 1 月　大阪外国語大学外国語学部教授
2007 年10月　大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻教授
2017 年 3 月　大阪大学博士（言語文化学）
2022 年 4 月　大阪大学大学院人文学研究科外国語学専攻教授
2024 年 3 月　定年により退職

【研究業績等一覧】

著書（単著）

1．『楽園に死す－アメリカ的想像力と〈死〉のアポリア』大阪大学出版会、2016 年 1 月 29 日、pp.1-546.（日本アメリカ文学会第 2 回アメリカ文学会賞受賞）

著書（共著）

1．『空間と英米文学』、藤井治彦編、第 10 章「独房、火葬場、天文台－『学生部長の一二月』の構造」英宝社、1987 年 12 月 15 日、pp.246-270.

2．『世界地域学への招待』池田修編、Part 4「テクストとしてのアメリカを読む」嵯峨野書院、1998 年 1 月 25 日、pp.321-334.

3．『自己実現とアメリカ文学』町田哲司編、第 10 章「ノイズから『ホワイト・ノイズへ－死がメディアと交わるところ」晃洋書房、1998 年 5 月 10 日、pp.174-194.

4．『藤井治彦先生退官記念論文集』藤井治彦編、第 60 章「「群衆」の時代と小説家の肖像－*Mao II* における死とメディアの神話学」英宝社、2000 年 2 月 25 日、pp.837-850.

5．『冷戦とアメリカ文学－21 世紀からの再検証』山下昇編、第 13 章「廃物のアウラと世紀末－封じ込められざる冷戦の『アンダーワールド』」世界思想社、2001 年 9 月 20 日、pp.329-361.

6．『共和国の振り子－アメリカ文学のダイナミズム』大井浩二監修、花岡秀・貴志雅之・渡邉克昭編、第 10 章「フレームの彼岸から自伝の暗室へ－『舞踏会へ向かう三人の農夫』における死と複製のヴィジョン」英宝社、2003 年 8 月 20 日、pp.177-194.

7．『身体、ジェンダー、エスニシティ－21 世紀転換期アメリカ文学における主体』鴨川卓博・伊藤貞基編、第 4 章「メディア、ジェンダー、パフ

ォーマンス－『ボディ・アーティスト』における時と消滅の技法」英宝社、2003 年 9 月 5 日、pp.117-143.

8．『病と身体の英米文学』玉井暲・仙葉豊編、第 5 章「「崇高」という病－「享楽」の『コスモポリス』横断」英宝社、2004 年 5 月 20 日、pp.86-108.

9．『ポストコロニアル文学の現在』木村茂雄編、第 4 章 1 節「マーガレット・アトウッド『侍女の物語』－「植民地」化される女」、「マイケル・オンダッチェの『イギリス人の患者』」晃洋書房、2004 年 6 月 10 日、pp.123-134.

10. 『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』山下昇・渡邉克昭編、第 5 章「ポストモダン文学への誘い－『黒い時計の旅』をめぐって」世界思想社、2006 年 10 月 10 日、pp.68-82.

11. 『神話のスパイラル－アメリカ文学と銃』花岡秀編、第 5 章「蘇る標的－デリーロ文学の弾道」英宝社、2007 年 3 月 15 日、pp.185-242.

12. 『メディアと文学が表象するアメリカ』山下昇編、第 7 章「9.11 と「灰」のエクリチュール－『フォーリングマン』における“nots”の亡霊」英宝社、2009 年 10 月 20 日、pp.166-192.

13. 『アメリカ文学研究のニュー・フロンティア－資料・批評・歴史』田中久男監修、亀井俊介・平石貴樹編、第 14 章「敗北の「鬼（イット）」を抱きしめて－『アンダーワールド』における名づけのアポリア」南雲堂、2009 年 10 月 20 日、pp.281-298. pp.351-354.

14. 『二〇世紀アメリカ文学のポリティクス』貴志雅之編、第 7 章「ホブズタウンより愛をこめて－『囚人のジレンマ』からフェアリー・ダスト・メモリーへ」世界思想社、2010 年 6 月 10 日、pp.215-247.

15. 『異相の時空間－アメリカ文学とユートピア』大井浩二監修、相本資子・勝井伸子・宮澤是・井上稔浩編、第 19 章「時の砂漠－惑星思考の『ポイント・オメガ』」英宝社、2011 年 5 月 10 日、pp.310-333.

16. 『ヘミングウェイ大事典』今村楯夫・島村法夫監修、分担執筆、勉誠出

版、2012 年 7 月 21 日、p.765, pp.767-769, pp.773-774.

17. 『アメリカン・ロード－光と陰のネットワーク』花岡秀編、第 10 章「シネマの旅路の果て－ドン・デリーロの「もの食わぬ人」における「時間イメージ」」英宝社、2013 年 11 月 25 日、pp.201-224.
18. 『災害の物語学』中良子編、第 3 章「噴火・蒐集・生成－『火山の恋人』における歴史の創造（ポイエーシス）／想像」世界思想社、2014 年 5 月 1 日、pp.74-101.
19. 『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』貴志雅之編、第 18 章「幸福」のこちら側－リチャード・パワーズの『幸福（ジェネロシティ）の遺伝子』に見る横溢と復元力」南雲堂、2018 年 2 月 28 日、pp.352-370.
20. 『揺れ動く〈保守〉－現代アメリカ文学と社会』山口和彦・中谷崇編、第 10 章「囁き続ける水滴－ドン・デリーロの『ゼロ K』における「生命の保守」」春風社、2018 年 9 月 13 日、pp.275-307.
21. 『アメリカ文化事典』アメリカ学会編、分担執筆、第 14 章「文学」、丸善出版、2019 年 1 月 20 日、pp.548-549.
22. 『脱領域・脱構築・脱半球－二一世紀人文学のために』巽孝之監修、下河辺美知子・越智博美・後藤和彦・原田範行編、第 6 章「錯乱のコズモポリス－『マーティン・ドレスラー』におけるポストヒューマン的身体としての「ホテル」」小鳥遊書房、2021 年 10 月 1 日、pp.137-155.

学術論文

1．“Hemingway and the Ritual.” *Osaka Literary Review* 第 20 号、大阪大学、1981 年 11 月 30 日、pp.171-181.
2．“*Henderson the Rain King*: Bellow’s Festival.” *Osaka Literary Review* 第 22 号、大阪大学、1983 年 12 月 20 日、pp.103-113.
3．「マキャベリアンのペイジェント－『オーギー・マーチの冒険』をめぐって」『関西アメリカ文学』第 21 号、日本アメリカ文学会関西支部、査読有り、1984 年 11 月 30 日、pp.42-55.
4．「ソール・ベローにおける老いと弔い－『サムラー氏の惑星』と『フンボ

ルトの贈り物』を中心に」『英米研究』第 16 号、大阪外国語大学英米学会、1988 年 2 月 29 日、pp.105-127.

5．「メタフィクションとしての『旅路の果て』」『英米研究』第 17 号、大阪外国語大学英米学会、1990 年 3 月 31 日、pp.101-124.

6．“Saul Bellow’s *More Die of Heartbreak*: A Companion Piece to *Humboldt’s Gift.*”『英米研究』第 18 号、大阪外国語大学英米学会、1992 年 3 月 31 日、pp.101-130.

7．「ヘルメスの贈り物－ソール・ベロー「銀の皿」試論」『英語圏世界の総合的研究』、大阪外国語大学英米学会、1993 年 3 月 31 日、pp.87-101.

8．「〈反〉祝祭としての『ビックリハウスの迷い子』－「夜の海の旅」の反復をめぐって」『英米研究』第 19 号、大阪外国語大学英米学会、1994 年 3 月 31 日、pp.187-213.

9．「Saul Bellow における富と贈与交換－*Humboldt’s Gift* を中心に」『アメリカ文学研究』第 31 号、日本アメリカ文学会、査読有り、1995 年 2 月 25 日、pp.57-71.

10. 「〈癒し〉としての騙り－*Seize the Day* における「貨幣」、タムキンをめぐって」『英米研究』第 20 号、大阪外国語大学英米学会、1995 年 2 月 28 日、pp.115-137.

11. 「大統領と総統とシミュラクラ－デリーロとエリクソンに見る「アメリカ史」」『世界文学』第 2 号、大阪外国語大学、1996 年 3 月 29 日、pp.363-397.

12. 「書物からハイパーテクストへ－変容する「文学空間」」『大阪外国語大学学内 LAN 利用の実際と今後』、大阪外国語大学英米学会、1997 年 3 月 31 日、pp.131-135.

13. 「ポストモダン・オズワルド、ポストモダン・アウラ－JFK 暗殺とドン・デリーロの『リブラ』」『英米研究』第 23 号、大阪外国語大学英米学会、1999 年 3 月 31 日、pp.163-189.

14. 「広告の物たちの国で－ドン・デリーロのスペクタクルの日常」『EX

ORIENTE』第 4 号、大阪大学言語社会学会、嵯峨野書房、2001 年 8 月 31 日、pp.67-96.

15. “Welcome to the Imploded Future: Don DeLillo’s *Mao II* Reconsidered in the Light of September 11.” *The Japanese Journal of American Studies* 第 14 号、アメリカ学会、査読有り、2003 年 6 月 30 日、pp.69-85.
16. 「ドン・デリーロにおける〈死〉のデザイン－オリエンタルな意匠をめぐって」*AALA Journal* 22 号、アジア系アメリカ文学会、査読有り、2016 年 12 月 1 日、pp.29-55.
17. 「ドン・デリーロの惑星的想像力の場としての“Convergence”－『ゼロ K』における「ポストヒューマン・ボディー」とアース・アート」『エコクリティシズム・レヴュー』第 11 号、エコクリティシズム研究学会、査読有り、2018 年 8 月 6 日、pp.1-13.
18. 「ポストヒューマン・デザインの地平－ダン・ブラウンの『オリジン』における AI と「かぐわしき科学」のゆくえ」『英米研究』第 43 号、大阪大学英米学会、2019 年 3 月 31 日、pp.31-59.
19. 「蘇るポストヒューマン・バートルビー－ドン・デリーロの『ボディ・アーティスト』を導きの糸として」『英米研究』第 44 号、大阪大学英米学会、2020 年 3 月 31 日、pp.29-57.
20. 「遺伝子のデザイン、記憶のデザイン－『オリクスとクレイク』における黄昏の代理「神」、スノーマン」『英米研究』第 45 号、大阪大学英米学会、2021 年 3 月 31 日、pp.39-64.
21. 「アメリカン・デモクラシーの逆説とそのゆくえ－*Mao II* と *The Silence* における自己免疫と来るべき「未来」」『英米研究』第 46 号、大阪大学英米学会、2022 年 3 月 31 日、pp.1-26.
22. 「躍動する無限「ホテル」の闇の奥－『ウェイ・イン』におけるアクターネットワークの生成と変化」『英米研究』第 47 号、大阪大学英米学会、2023 年 2 月 28 日、pp.1-19.

翻訳

1．ウェイン・ブース著『フィクションの修辞学』米本弘一・服部典之と共訳、書肆風の薔薇、1991 年 2 月 25 日、pp.337-484. pp.515-531.

2．ソール・ベロー著「銀の皿」、『世界文学』第 1 号、大阪外国語大学、1995 年 3 月 20 日、pp.237-299.

3．エモリー・エリオット編『コロンビア米文学史』共訳、山口書店、1997 年 1 月 10 日、pp.65-76.

4．ドン・デリーロ著「アメリカ人であることの不思議さ、ドン・デリーロへのインタヴュー」『世界文学』第 5 号、大阪外国語大学、2000 年 3 月 30 日、pp.359-86.

5．ドン・デリーロ著『マオ II』本の友社、2000 年 4 月 28 日、pp.1-304.

書評

1．スティーヴ・エリクソン著『彷徨う日々』、「記憶のシネマトグラフ－エリクソンの『青の時代』」『週刊読書人』1997 年 5 月 30 日、第 2 面。

2．上岡伸雄著『ヴァーチャル・フィクション－マルチメディア時代のアメリカ文学』『アメリカ文学研究』第 36 号、日本アメリカ文学会、2000 年 2 月 25 日、pp.131-137.

3．海外新潮「Paper Palace の迷い子」『英語青年』第 150 巻 1 号、研究社、2004 年 4 月 1 日、p.46.

4．海外新潮「「ブッカー賞とスモールタウン・テキサス」『英語青年』第 150 巻 3 号、研究社、2004 年 6 月 1 日、p.30.

5．海外新潮「燐光を放つ trivia」『英語青年』第 150 巻 5 号、研究社、2004 年 8 月 1 日、p.37.

6．海外新潮「カオス理論とポストモダン・アメリカ小説」『英語青年』第 150 巻 7 号、研究社、2004 年 10 月 1 日、p.40.

7．海外新潮「Unlucky Pierre とセルロイドの詩神たち－Robert Coover のシネシティ探訪」『英語青年』第 150 巻 9 号、研究社、2004 年 12 月 1 日、

p.41.
８．海外新潮 “Wrong Day’s Journey into Celebrity: Don DeLillo’s Valparaiso” 『英語青年』第 150 巻 11 号、研究社、2005 年 2 月 1 日、p.40.
９．Walter Benn Michaels 著 *The Shape of the Signifier: 1967 to the End of History*『英文学研究』第 82 巻、日本英文学会、2005 年 12 月 1 日、pp.209-213.
10. 下河辺美知子編著『アメリカン・テロル－内なる敵と恐怖の連鎖』『英文学研究』第 87 巻、日本英文学会、2010 年 12 月 1 日、pp.77-82.
11. 三浦玲一編著『文学研究のマニフェスト－ポスト理論・歴史主義の英米文学批評入門』『アメリカ文学研究』第 50 号、日本アメリカ文学会、2014 年 3 月 31 日、pp.137-138.
12. 赤祖父哲二著『アメリカ－三つの顔』『週刊読書人』、2013 年 11 月 8 日、第 7 面。
13. 諏訪部浩一著『アメリカ小説を探して』『アメリカ文学研究』第 55 号、日本アメリカ文学会、2019 年 3 月 31 日、p.113.
14. 森有礼・小原文衛編著『路と異界の英語圏文学』『アメリカ文学研究』第 56 号、日本アメリカ文学会、2020 年 3 月 31 日、p.100-101.
15. 広瀬佳司・伊藤雅彦編著『ジューイッシュ・コミュニティ－ユダヤ系文学の源泉と空間』『アメリカ文学研究』第 58 号、日本アメリカ文学会、2022 年 3 月 31 日、p.140-141.

大学教科書

１．David Lodge 著 *The Art of Fiction*（『小説の技法』）英宝社、内田憲男と共編注、1996 年 1 月 10 日、pp.93-123.
２．*Masterpieces of Contemporary American Short Stories*（『現代アメリカ作家傑作選』）英宝社、伊藤貞基と共編注、1996 年 1 月 10 日、pp.119-40.
３．Michael Kowalewski 著 *Popular Classics of American Literature*（『名作を語る－アメリカ文学への誘い』）英宝社、編注、1997 年 1 月 10 日、

pp.97-123.

4．Adrian Beard 著 *The Language of Sport*（『スポーツとことば』）英宝社、早瀬尚子と共編注、2000 年 1 月 10 日、pp.71-83.

論評

1．「魅力的な副専攻語英語教育のために」『新しい副専攻語英語教育』、大阪外国語大学、2000 年 3 月 31 日、pp.9-15.

2．「“To be, or not to be”－英語教育における文学テクストの位相と理想」『大阪外大全体の効果的な英語教育』、大阪外国語大学、2001 年 3 月 31 日、pp.28-36.

3．「アーネスト・ヘミングウェイと儀式」『英語青年』第 152 巻第 12 号、研究社、2007 年 3 月 1 日、pp.19-20.

4．「アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学」『アメリカ文学研究』創刊 50 周年記念フォーラム「日本におけるアメリカ文学研究－その過去・現在・未来」『アメリカ文学研究』第 50 号、日本アメリカ文学会、2013 年 3 月 31 日、pp.39-41.

学会シンポジウム講師

1．日本英文学会第 58 回全国大会シンポジウム：「老いと文学」、司会、講師：谷口陸男、講師：原口遼、谷本泰子、渡邉克昭。「ソール・ベローにおける老い」1986 年 5 月 18 日、関西学院大学。

2．日本アメリカ文学会第 39 回関西支部大会フォーラム：「最近のアメリカ小説を考える」、司会：伊藤貞基、講師：多賀谷悟、若島正、渡邉克昭。「ドン・デリーロとスティーヴ・エリクソン」1995 年 12 月 9 日、立命館大学。

3．日本アメリカ文学会第 39 回全国大会シンポジウム：「二つの世紀末－意識と表現」、司会：佐々木隆、講師：大井浩二、若島正、好井千代、渡邉克昭。「廃物のアウラと世紀末－封じ込められざる冷戦の *Under-*

world」2000 年 10 月 15 日、同志社大学。

4．日本アメリカ文学会第 45 回関西支部大会フォーラム：「身体、ジェンダー、エスニシティ－1990 年代以降のアメリカ文学に見られる主体の変容」、司会：鴨川卓博、コメンテイター：伊藤貞基、講師：古賀哲男、馬場奈美子、山本秀行、渡邉克昭。「メディア、ジェンダー、パフォーマンス－*The Body Artist* における時と消滅の技法」2001 年 12 月 15 日、立命館大学。

5．日本アメリカ文学会第 43 回全国大会シンポジウム：「神話のスパイラル－アメリカ文学と銃」司会、講師：花岡秀、講師：中良子、貴志雅之、辻本庸子、渡邉克昭。「蘇る標的－DeLillo 文学の弾道」2004 年 10 月 17 日、甲南大学。

6．阪大英文学会第 37 回大会シンポジウム：「わたしが選ぶ英米文学のこの 1 冊」、「ドン・デリーロの『アンダーワールド』」2004 年 11 月 6 日、大阪大学。

7．日本アメリカ文学会第 46 回全国大会シンポジウム：「共振する／交錯するメディアとアメリカ文学」、司会：山下昇、講師：森岡裕一、田口哲也、山本秀行、渡邉克昭。「メディアの亡霊－9. 11 と「灰」のエクリチュール」2007 年 10 月 14 日、広島経済大学。

8．日本英文学会関西支部第 4 回大会シンポジウム「〈伝・染〉と英米文学」、司会、講師：仙葉豊、講師：新妻昭彦、花岡秀、渡邉克昭。「敗北の『鬼（イット）』を抱きしめて」2009 年 12 月 20 日、同志社大学。

9．アメリカ学会第 44 年次大会部会 A：「逆説のアメリカ－核政策と核意識を中心に」、司会：竹内俊隆、報告者：梅本哲也、黒崎輝、上岡伸雄、渡邉克昭。「『囚人のジレンマ』におけるバイオ・ポリティクスの逆説」2010 年 6 月 6 日、大阪大学。

10. 日本アメリカ文学会第 55 回関西支部大会フォーラム：「Natural Disaster とアメリカ的想像力」、司会・講師：中良子、講師：林以知郎、松岡信哉、石本哲子、渡邉克昭。「噴火・蒐集・生成－*The Volcano Lover* にお

ける歴史のポイエーシス」2011 年 12 月 3 日、武庫川女子大学。

11. 日本アメリカ文学会中・四国支部冬季大会シンポジウム：「アメリカ文学における幸せの追求」、司会・講師：新田玲子、講師：塩田弘、貴志雅之、渡邉克昭。「「幸福」のこちら側－Richard Powers の *Generosity* に見る Exuberance と Resilience」2014 年 12 月 13 日、県立広島大学。
12. 日本アメリカ文学会東京支部 12 月例会シンポジウム：「「保守」の諸相」、司会・講師：山口和彦、講師：中谷崇、深瀬有希子、渡邉克昭。「囁き続ける水滴－ドン・デリーロの『ゼロ K』における生命の保守」2016 年 12 月 5 日、慶應義塾大学。
13. 阪大英文学会第 50 回大会シンポジウム：「藤井先生のご講義と『思想としての空間』」、司会：服部典之、講師：大森文子、川嶋伸博、足立賀代子、渡邉克昭。2017 年 10 月 28 日、大阪大学。
14. 日本アメリカ文学会第 63 回　関西支部大会フォーラム「メルヴィルとホイットマンの時代－生誕 200 年を記念して』、司会・講師：橋本安央、講師：入子文子、堀内正規、渡邉克昭。「蘇るポストヒューマン・バートルビー－ドン・デリーロの『ボディ・アーティスト』を導きの糸として」2019 年 12 月 14 日、龍谷大学。
15. 日本アメリカ文学会関西支部例会シンポジウム「変容する〈ホテル〉の時空間」、司会・講師：池末陽子、講師：後藤篤、千代田夏夫、渡邉克昭。「錯乱のコズモポリス－『マーティン・ドレスラー』におけるポストヒューマン的身体としての「ホテル」」2020 年 10 月 24 日、オンライン。
16. 日本アメリカ文学会第 60 回全国大会シンポジウム「アメリカ作家たちのデモクラシー－危機の時代を超えて』、司会・講師：渡邉克昭、講師：西谷拓哉、三杉圭子、岡本太助。「アメリカン・デモクラシーの逆説とそのゆくえ－*Mao II* と *The Silence* における自己免疫と来るべき「未来」」2021 年 10 月 3 日、オンライン。
17. 日本ソール・ベロー協会第 35 回大会シンポジウム：「“A Silver Dish”

を読む」、司会・講師：渡邉克昭、講師：大場昌子、伊達雅彦、近藤佑樹。「「世界は善なるものに満ちて」−「銀の皿」における「生」の創造的進化」2023 年 9 月 2 日、大阪大学。

18. 日本アメリカ文学会第 65 回関西支部大会シンポジウム：「AI と小説との出会い」、司会：木原善彦、講師：大内真一郎、荘中孝之、大曽根宏幸、渡邉克昭。「ウィンストンは「生の跳躍（エラン・ヴィタル）」の夢を見るか？ −ダン・ブラウンの『オリジン』におけるアクターネットワークの生成」2023 年 12 月 2 日、京都女子大学。

招待講演

1．福島大学招待講演「幻想としてのアメリカ−フィクションが文化と交わるところ」2005 年 11 月 12 日、福島大学。
2．アジア系アメリカ文学研究会第 24 回フォーラム招待講演「ドン・デリーロにおける〈死〉のデザイン−オリエンタルな意匠をめぐって」2016 年 9 月 25 日、神戸大学。
3．京都大学大学院人間・環境学研究科招待講演「破局と生成のアレンジメント−デリーロ文学における微粒子とメディアの亡霊」2017 年 7 月 14 日、京都大学。
4．エコクリティシズム研究学会第 30 回大会招待講演「ドン・デリーロの惑星的想像力の場としての“Convergence”−『ゼロ K』における「ポストヒューマン・ボディ」とアース・アート」2017 年 8 月 5 日、サテライトキャンパスひろしま。
5．日本英文学会関西支部第 12 回大会招待発表「囁き続ける水滴−『ゼロ K』における「器官なき身体」」2017 年 12 月 17 日、京都女子大学。
6．日本ソール・ベロー協会第 30 回大会招待講演「呼び交わす巨匠たち−ベロー、ヘミングウェイ、デリーロにおける〈死〉のアポリア」2018 年 9 月 5 日、専修大学。
7．大阪市大学英文学会第 48 回大会招待講演「21 世紀デリーロ文学におけ

るポストヒューマン的転回－アトウッドとの比較において」2020 年 12 月 12 日、オンライン。

研究発表

1．日本アメリカ文学会関西支部例会「「マキャベリアンのペイジェント－『オーギー・マーチの冒険』をめぐって」1984 年 5 月 26 日、大阪市立大学文化交流センタ。
2．日本アメリカ文学会第 32 回全国大会「Saul Bellow における富と贈与交換－*Humboldt's Gift* を中心に」1993 年 10 月 9 日、弘前大学。
3．阪大英文学会第 29 回大会「ノイズから『ホワイト・ノイズへ－死がメディアと交わるところ」1996 年 10 月 26 日、大阪大学。
4．日本アメリカ文学会第 37 回全国大会「「群衆」の時代と小説家の肖像－*Mao II* における死とメディアの神話学」1998 年 10 月 17 日、広島女学院大学。
5．日本アメリカ文学会関西支部例会「時の砂漠－惑星思考の『ポイント・オメガ』」2010 年 11 月 6 日、京都女子大学。

学会活動

1．日本アメリカ文学会（1982 年 4 月 1 日～現在）
関西支部長：2013 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日、本部代議員：2011 年 4 月 1 日～現在、本部編集委員：2010 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日、2018 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日、本部編集委員長：2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日、本部事務局代表幹事：2008 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日、関西支部評議員：1997 年 4 月 1 日～現在。
2．日本英文学会（1986 年 4 月 1 日～現在）
本部編集委員：2010 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日、本部編集副委員長 2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日、関西支部理事 2023 年 4 月 1 日～現在。

３．日本ソール・ベロー協会（1989 年 4 月 16 日～現在）
理事：2001 年 4 月 1 日～現在。
４．日本アーネスト・ヘミングウェイ協会（1992 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）
５．大阪大学言語社会学会（1997 年 11 月 6 日～現在）
理事、編集委員：2007 年 10 月 1 日～現在。
６．アメリカ学会（2007 年 4 月 1 日～現在）
評議員、年次大会プログラム委員：2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日。
７．日本ウィリアム・フォークナー協会（2009 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）
８．日本マーク・トウェイン協会（2010 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）
９．日本アメリカ演劇学会（2010 年 4 月 1 日～現在）

文部科学省科学研究費補助金　基盤研究 C
【研究代表者】
１．「現代アメリカ文学におけるメディアと死の関係」（1997 年 4 月 1 日～1999 年 3 月 31）
２．「現代アメリカ文学における『アメリカン・サブライム』の表象とアウラの発現に関する研究」（2001 年 4 月 1 日～2004 年 3 月 31 日）
３．「アメリカ文学における銃の表象とアメリカの神話の関係に関する研究」（2005 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日）
４．「20 世紀アメリカ文学における進歩のデザインと破局の表象に関する文化史的研究」（2010 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）
５．「アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学」（2014 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）
６．「21 世紀英語文学におけるポストヒューマニズムの思想史的展開－物質としての生命」（2018 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

7．「ポストヒューマン文学における異種混淆とデモクラシー－アクターネットワークの生成」（2022 年 4 月 1 日～現在）

【研究分担者】

8．「現代アメリカ文学における身体意識の変容とメディアと研究の関係」（2004 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日）

9．「アメリカ文学と写真／ドキュメンタリーとのインタラクテイヴな関係に関する学際的研究」（2009 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

10.「アメリカ文学におけるホテル的空間の文化史」（2019 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

その他

1．科研費第 2 段審査委員（第 2 部会文学小委員）（2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日）

2．高大連携：京都市立堀川高校生とのワークショップ・講演、「国際文化への誘い」2023 年 3 月 17 日、大阪大学。

集中講義

1．高知大学人文学部（1999 年度）

2．神戸市外国語大学外国語学部（2006 年度）

3．九州大学文学部（2007 年度）

4．広島大学文学部（2008 年度）

5．神戸大学文学部（2016 年度）

6．大阪市立大学文学部（2017 年度）

7．大阪市立大学文学部（2020 年度）

8．龍谷大学文学研究科（2023 年度）

9．神戸大学文学部（2023 年度）